

一生に大きい影響を与える「いじめ、不登校・引きこもり・家庭内暴力・自傷・摂食障害・薬物依存」などの予防、家庭教育、しつけ、について

近年、うつ・パニック・自傷・多剤乱用が若年者・女性に増加し大衆化・一般化している・・・家庭では一日一回家族会議的情報交換・反省会を

いじめられの悩みが悪化・蓄積し うつ・自殺・不登校 の防止を

病棟内・内観療法により人生を幼児期から回想すると・・・

- 1 . 幼児期からの父母の不和・別居・離婚 引っ越し **いじめられ** 心身症
 - 2 . **いじめられ** 不登校 ひきこもり 不安・うつ状態 パニック症候
 - 3 . 不安・うつ状態 多医療機関受診 多薬物服用 医療薬物依存
 - 4 . 不登校 中途退学 孤独 夜間外出・泊 非行文化 触法薬物依存
- というような、経過、不幸の連鎖・心的外傷の蓄積が症状形成の背景にある。

いじめの防止にはホームルーム内観を推奨したい。キレる = 臨界点(凍る)

1 次予防：健全育成、健康教育、スポーツ、芸術、倫理・宗教教育

- 1 . 健全な家庭：父母は仲よく、父・母役割の分担、家族会議で会話と成長を。
心を凍らせない：自分の目鼻、口、耳、手足の尊さに気付き**感謝と奉仕**を。
- 2 . 不登校の予防・早期治療、いじめ問題の早期発見・解消、学校運営を健全に母にしてもらったことは？ 朝、昼、夕、夜、母にしてもらったことは？
母に 茶の間、台所、風呂、トイレ、玄関、居間で、母にしてもらったことは？
母の目に、鼻、口、耳、手、足、背中、に心にしてもらったことは？
- 3 . 内観療法、生活療法には**薬物に依存しない、多角的長所伸ばしの実践**。
- 4 . 薬物依存の害の啓蒙・啓発・教育を。学業、仕事、スポーツ、芸術のバランスを

2 次予防：早期（発見、介入、支援、有効な治療）治療計画の開示

- 1 . 早期に相談を（父母が気付きと応援、教師・学校の体制と医師の協力を要す）。
早期発見 朝寝坊・遅刻は不登校の前兆。親の起床促進への抵抗 家庭内暴力 家族仲良く、そろって楽しい食事 摂食障害の予防(よく噛み、十分味わう)。
- 2 . **不登校に対し通学を含む7～14日の短期入院**・内観後の早期登校支援療法。
これが早期通学再開を可能とし、家庭内暴力や引きこもりの予防になりうる。
- 3 . 治療実績の開示、**校内巡視**、PTAの**活性化**や校内研究会、インターネットで情報開示。
- 4 . 実効ある医療（父母・学校・教師・医師・看護師・学習指導者の協力）を実践し、過去の治療実績の公正な開示（患者会や家族会の意見の開示）をすべきである。**病院内での体育館での運動、進度に応じた学習指導、病院から通学開始**。

3 次予防：早期通学開始、デイケア通所、社会復帰、再発防止、家族会

- 1 . 散歩、山登り、パークゴルフ、ピカニック、仲間の会、家族会の支援、職能教育などとの連携を要する。生活を野外で仲間と楽しむ。デイケアに通所する。
- 2 . 母子分離、共同住宅・近隣アパートに住む、就労支援。親の共依存への治療。
- 3 . 触法性ある症例などでは警察との連携、児童虐待を起こしかねない症例は児童相談所、など他機関との連携を構築したい。家族を含めた内観療法を。
- 4 . 当院では30年間にわたるアルコール依存症に関する治療経験が、より重篤な各種問題を抱える薬物依存の治療システム構築に有益であった。**断酒会、ギャンブル依存者の会、ピカソアリス**との連携なども実践し有効と考えられる。
- 5 . 学校・教師にはピア・サポート（仲間づくり）の協力をお願いしたい。

相談方法：Tel：011-644-5111、FAX：011-644-1001、Mail：info@sapporo-ohita.or.jp

